

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

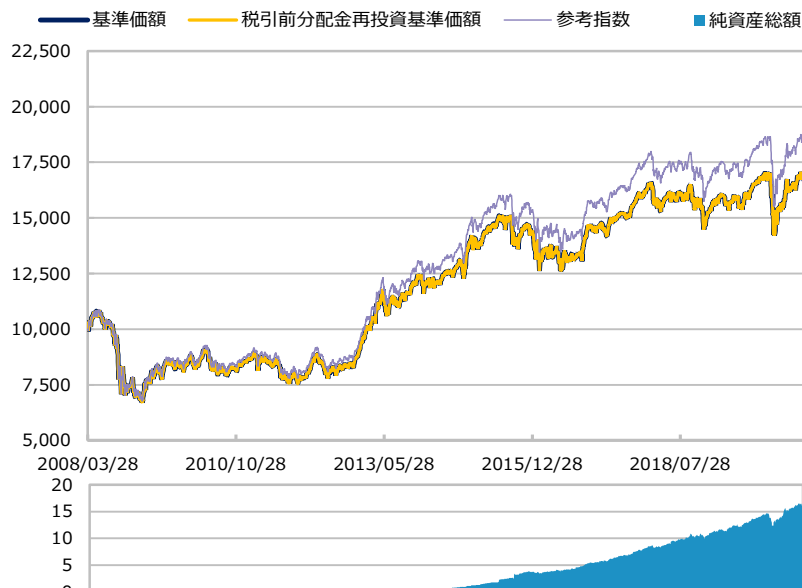
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

ファンド設定日：2008年03月31日

日経新聞掲載名：DC2045

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
 - 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。
 - 参考指数は、合成指数です。ファンド設定日前日を10,000とした指数を使用しています。
 - ファンドは当該合成指数の動きに連動する投資成果を目指します。
- 詳細は後述の「ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	16,832	-63
純資産総額（百万円）	1,644	+2

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド	参考指数
1カ月	2020/08/31	-0.4	-0.3
3カ月	2020/06/30	3.4	3.6
6カ月	2020/03/31	10.9	11.5
1年	2019/09/30	5.0	5.7
3年	2017/09/29	8.1	10.1
設定来	2008/03/31	68.3	85.2

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- 換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第8期	2016/04/13	0
第9期	2017/04/13	0
第10期	2018/04/13	0
第11期	2019/04/15	0
第12期	2020/04/13	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
株式計	54.0	54.1	+0.1	-0.1
国内株式マザー	31.0	30.7	-0.3	-0.0
外国株式マザー	23.0	23.3	+0.3	-0.1
債券計	44.0	43.6	-0.4	+0.1
国内債券マザー	24.0	23.7	-0.3	-0.2
外国債券マザー	20.0	19.9	-0.1	+0.2
現金等	2.0	2.4	+0.4	+0.0
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

※ 現金等にはマネー・ファンドを含みます。

※ 各組入マザーファンドの正式名称は2枚目以降をご覧ください。

基準価額の変動要因（円）

	寄与額
国内株式	+68
外国株式	-146
国内債券	+12
外国債券	+37
為替	-28
分配金	0
その他	-7
合計	-63

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。

※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

※ このページは「国内株式マザー：国内株式インデックス・マザーファンド（B号）」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	98.1	-0.1
先物等	1.5	-0.3
現金等	0.4	+0.5
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2020/08/31	1.3	1.3
3か月	2020/06/30	5.1	5.2
6か月	2020/03/31	17.0	17.0
1年	2019/09/30	4.9	4.9
3年	2017/09/29	4.4	4.2
設定来	2008/03/31	70.9	70.6

※ ベンチマークは、TOPIX（配当込み）です。

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比
1 電気機器	15.2	+0.4
2 情報・通信業	10.0	-0.0
3 化学	7.2	+0.1
4 輸送用機器	6.9	-0.3
5 医薬品	6.4	-0.1
6 サービス業	5.6	+0.2
7 機械	5.4	+0.0
8 小売業	5.0	+0.1
9 銀行業	4.6	-0.2
10 卸売業	4.6	-0.1

※ 業種は東証業種分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 1,655）

銘柄	業種	比率
1 トヨタ自動車	輸送用機器	3.3
2 ソフトバンクグループ	情報・通信業	2.2
3 ソニー	電気機器	2.2
4 キーエンス	電気機器	1.9
5 任天堂	その他製品	1.6
6 武田薬品工業	医薬品	1.3
7 リクルートホールディングス	サービス業	1.2
8 日本電信電話	情報・通信業	1.2
9 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.2
10 第一三共	医薬品	1.2

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

※ このページは「国内株式マザー：国内株式インデックス・マザーファンド（B号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

株式市場では、TOPIX（配当込み）の月間騰落率は1.30%の上昇となりました。

上旬は、米国ハイテク株の下落などが重石となったものの、内外景気の回復期待などが下支えとなり、狭いレンジ内でもみ合う展開となりました。中旬は、国内経済活動の正常化への期待が高まったことが支援材料となったものの、FOMC（米連邦公開市場委員会）で追加の量的緩和が示唆されなかったことや、円高進行が重石となり、小幅な上昇にとどまりました。下旬は、9月末の配当権利取りや配当金再投資による買いが需給を支えたものの、米大統領選挙においてバイデン氏優位との見方から増税などが警戒され、月末に下落しました。

業種別では、海運業、精密機器、サービス業などが市場をアウトパフォームした一方、鉱業、石油・石炭製品、空運業などがアンダーパフォームしました。

<市場見通し>

世界景気については、新型コロナウイルスの感染拡大の抑制と経済活動再開のバランスを取りつつ、財政・金融面での政策出動を支えに、緩やかに回復へ向かうと予想します。

株式市場については、新政権誕生後の国内政治情勢を巡る不透明感から短期的には値動きが荒くなる可能性はあるものの、世界景気および企業業績の底入れ後の回復の強さを探りながら戻り歩調で推移すると予想します。リスク要因としては、感染拡大による経済活動制限措置の再強化、米中対立の激化、企業倒産の増加、中東地域での地政学リスクの高まりなどに留意する必要があると考えます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

※ このページは「外国株式マザー：外国株式インデックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	97.2	-1.0
先物等	3.0	+1.2
現金等	-0.1	-0.2
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2020/08/31	-3.9	-3.9
3か月	2020/06/30	6.9	7.0
6か月	2020/03/31	24.9	25.0
1年	2019/09/30	8.8	9.0
3年	2017/09/29	19.7	20.5
設定来	2008/03/31	146.3	150.4

※ ベンチマークは、MSCI コクサインデックス（円換算ベース）です。

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 アメリカ	67.5	-0.9
2 イギリス	4.1	-0.1
3 スイス	3.6	+0.1
4 カナダ	3.3	-0.1
5 フランス	3.3	-0.0

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	70.1	-0.9
2 ユーロ	10.4	-0.0
3 イギリスポンド	4.3	-0.1
4 スイスフラン	3.4	+0.1
5 カナダドル	3.3	-0.1

組入上位5業種（％）

	当月末	前月比
1 ソフトウェア・サービス	12.2	-0.3
2 医薬品・バイオテクノロジー	8.3	+0.1
3 メディア・娯楽	6.5	-0.3
4 小売	6.1	-0.2
5 テクノロジ・ハードウェア・機器	6.1	-0.3

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 1,288）

銘柄	国・地域	業種	比率
1 アップル	アメリカ	テクノロジ・ハードウェア・機器	4.7
2 マイクロソフト	アメリカ	ソフトウェア・サービス	3.5
3 アマゾン・ドット・コム	アメリカ	小売	3.1
4 フェイスブック	アメリカ	メディア・娯楽	1.5
5 アルファベット クラスC	アメリカ	メディア・娯楽	1.0
6 アルファベット クラスA	アメリカ	メディア・娯楽	1.0
7 ジョンソン・エンド・ジョンソン	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	0.9
8 ネスレ	スイス	食品・飲料・タバコ	0.8
9 プロクター・アンド・ギャンブル	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	0.8
10 VISA	アメリカ	ソフトウェア・サービス	0.8

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

※ このページは「外国株式マザー：外国株式インデックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

9月の米国市場は下落しました。これまで値上がりしていた情報技術を中心に利益確定の売りに押され、月初に大きく下落しました。新型コロナウイルスの新規感染者数が米国でも再び増勢を見せ、経済への影響も懸念されるなか、米中関係の悪化懸念や追加景気対策に対する不透明感から、上値の重い展開となりました。月末にかけては、値ごろ感から情報技術を中心として反発する場面もありました。中旬に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）では予想通り政策金利は据え置かれ、長期的な低金利政策の継続が確認されました。

欧州市場も下落しました。月の前半は、欧州での新型コロナウイルス感染再拡大懸念の広がりや英国のEU（欧州連合）からの合意なき離脱に対する不安が高まる一方、欧州各国の財政政策への期待やワクチン開発に向けた臨床試験の再開、中国の堅調な経済指標などが好感され、一進一退の動きとなりました。中旬には、大手グローバル銀行による不正な資金異動に関するニュースフローなどが嫌気され、下落しました。

（為替）当月末の米ドル/円は、前月末（105円台前半）から円安の105円台後半、ユーロ/円は前月末（125円台半ば）から円高の124円台前半となりました。米ドル/円は、米国株価の軟調な推移からリスクセンチメント（投資家心理）が悪化し、一時的に米ドル安となりましたが、月末にかけては株価が下げ止まるなか、米ドル高へと反発し、月間ではほぼ横ばいとなりました。ユーロ/円は、欧州圏の感染拡大懸念や英国とEUのFTA（自由貿易協定）交渉の難航などからリスクセンチメントが悪化し、ユーロ安となりました。月後半には、ECB（欧州中央銀行）高官からユーロ高をけん制する発言が相次いだこともユーロを下押ししました。

＜市場見通し＞

米国市場は緩やかな上昇基調を予想します。新型コロナウイルスの感染再拡大については引き続き懸念が残るものの、大規模な経済活動の停止リスクは低下しました。金融緩和政策の継続および財政政策への期待も株価の下支え材料となると考えられます。株式市場は一旦の株価下落による調整を経て、企業業績の回復力へと注目が集まるとみています。緩やかな景気回復のもと、企業業績も底打ちの動きが見られており、株価も緩やかな上昇基調が続く見通しです。但し、ワクチンおよび治療薬の開発遅延の可能性、米大統領選挙の動向次第では、株価の変動性が高まる可能性は残ります。

欧州市場も、緩やかな上昇基調を予想します。米国と同様に、感染再拡大による経済活動の停滞やワクチンおよび治療薬の開発遅延、また米国と欧州および中国との関係悪化がリスク材料として懸念される一方で、金融・財政政策への期待が相場のサポート材料になると予想します。

（為替）米ドル/円は、日米金利差が中期的な米ドルの支援材料になるとみられる一方で、米大統領選を控えて市場が慎重姿勢を強めると想定され、レンジ相場を予想します。ユーロ/米ドルに関しては、欧州における感染拡大への警戒が続きますが、景気の持ち直しや欧州復興基金による投資拡大への期待がユーロの支援材料となり、ユーロの底堅い推移を予想します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用


 三井住友DSアセットマネジメント

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

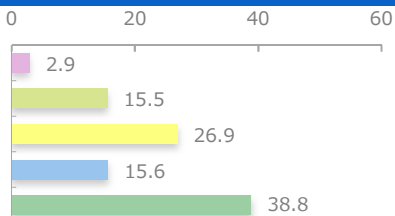
※ このページは「国内債券マザー：国内債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
債券	99.8	+0.1
先物等	0.0	0.0
現金等	0.2	-0.1
合計	100.0	0.0

残存構成比率（％）

	当月末	前月比
1年未満	2.9	-0.4
1-3年	15.5	+2.3
3-7年	26.9	-0.9
7-10年	15.6	-0.5
10年以上	38.8	-0.4



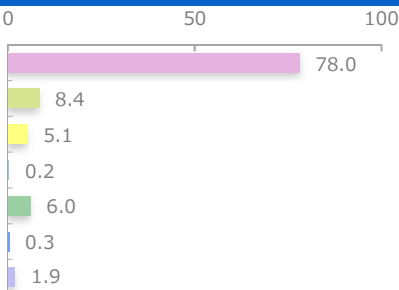
騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2020/08/31	0.3	0.3
3か月	2020/06/30	0.2	0.2
6か月	2020/03/31	-0.3	-0.3
1年	2019/09/30	-1.8	-1.8
3年	2017/09/29	2.2	2.1
設定来	2008/03/31	24.2	24.0

※ ベンチマークは、NOMURA-BPI（総合）です。

種別構成比率（％）

	当月末	前月比
国債	78.0	-0.7
地方債	8.4	+0.3
政府機関債	5.1	+0.5
金融債	0.2	+0.0
事業債	6.0	-0.0
円建外債	0.3	+0.0
その他債券	1.9	-0.0



ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン（％）	1.2	+0.0
残存年数（年）	10.3	-0.0
デュレーション（年）	9.4	+0.0
直接利回り（％）	1.0	+0.0
最終利回り（％）	0.1	-0.0

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄

（組入銘柄数 429）

銘柄	クーポン（％）	残存年数（年）	比率（％）
1 第329回利付国債（10年）	0.800	2.7	1.6
2 第144回利付国債（5年）	0.100	4.7	1.4
3 第59回利付国債（20年）	1.700	2.2	1.2
4 第357回利付国債（10年）	0.100	9.2	1.0
5 第330回利付国債（10年）	0.800	3.0	1.0
6 第325回利付国債（10年）	0.800	2.0	1.0
7 第61回利付国債（20年）	1.000	2.5	0.9
8 第69回利付国債（20年）	2.100	3.5	0.8
9 第65回利付国債（20年）	1.900	3.2	0.8
10 第358回利付国債（10年）	0.100	9.5	0.8

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

※ このページは「国内債券マザー：国内債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

長期金利（10年国債利回り）は、前月末の+0.051%から+0.016%へ低下しました。

長期金利は、月初に0.0%台半ばで始まりました。首相交代後も金融政策は変わらないとの見方が徐々に広がったほか、追加財政政策への期待後退や新型コロナウイルスの感染再拡大などを背景に海外金利が低下したこともあり、国内長期金利も低下基調となりました。中旬に行われた日銀金融政策決定会合では金融政策が維持されました。下旬に黒田総裁は菅首相と会談し、資金繰り支援策について必要な期限延長はありうるとのスタンスを示しました。長期金利は0.005%へ低下する場面もありましたが、月末にかけては、三次補正予算編成への警戒感もくすぶるなか、金利低下幅をやや縮小して終わりました。

<市場見通し>

国内景気は、緩やかに持ち直しています。消費増税や教育無償化の影響を除くと、CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は小幅マイナス圏で推移する見込みです。低金利の長期化に伴う副作用が累積するなかで追加利下げのハードルは高く、日銀の長短金利操作目標（短期金利：日本銀行当座預金のうち政策金利残高に-0.1%のマイナス金利を適用、長期金利：ゼロ%程度）は維持される見通しです。日銀は積極的な国債買入れにより金利上昇抑制の姿勢を示していることから、長期金利は低水準での推移を想定します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

※ このページは「外国債券マザー：外国債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
債券	99.7	+0.8
先物等	0.0	0.0
現金等	0.3	-0.8
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2020/08/31	0.5	0.5
3か月	2020/06/30	1.4	1.4
6か月	2020/03/31	2.5	2.7
1年	2019/09/30	6.1	6.3
3年	2017/09/29	7.7	7.9
設定来	2008/03/31	46.4	47.6

※ ベンチマークは、FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）です。

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン（％）	2.5	+0.0
残存年数（年）	9.8	+0.2
デュレーション（年）	8.1	+0.2
直接利回り（％）	2.0	-0.0
最終利回り（％）	0.3	-0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	43.7	+0.3
2 ユーロ	41.4	+0.4
3 イギリスポンド	6.5	-0.1
4 オーストラリアドル	2.4	+0.1
5 カナダドル	1.9	+0.0

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 アメリカ	43.7	+0.3
2 フランス	10.4	+0.1
3 イタリア	9.6	+0.1
4 ドイツ	7.5	+0.3
5 イギリス	6.5	-0.1

組入上位10銘柄

（組入銘柄数 623）

銘柄	通貨	クーポン（％）	残存年数（年）	比率（％）
1 アメリカ国債	アメリカドル	1.750	3.7	0.8
2 アメリカ国債	アメリカドル	0.250	2.7	0.5
3 アメリカ国債	アメリカドル	0.625	9.6	0.5
4 アメリカ国債	アメリカドル	3.000	27.9	0.5
5 アメリカ国債	アメリカドル	2.625	8.4	0.5
6 イタリア国債	ユーロ	3.500	9.4	0.5
7 アメリカ国債	アメリカドル	2.125	3.5	0.4
8 アメリカ国債	アメリカドル	2.250	4.1	0.4
9 アメリカ国債	アメリカドル	2.875	7.9	0.4
10 アメリカ国債	アメリカドル	1.625	5.6	0.4

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

※ このページは「外国債券マザー：外国債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

（債券）当月末（現地9月29日）の米国長期金利（10年国債利回り）は0.65%と、前月末の0.72%から低下しました。ドイツ長期金利（10年国債利回り）も-0.55%と、前月末の-0.41%から低下しました。

米国では、月初はFRB（米連邦準備制度理事会）理事のハト派（景気を重視する立場）的な発言などを背景に、金利は低下しました。その後、市場予想を上回る失業率の改善などから金利は一時上昇する場面がありましたが、株価が軟調に推移したことから金利は低下しました。ユーロ圏では、スペインやフランスなどで感染が拡大し、経済活動再開の動きに懸念が生じるなか、ドイツ金利は低下しました。また、月後半には、ECB（欧州中央銀行）高官からハト派的な発言が相次ぎ、金利を下押ししました。

（為替）当月末（9月30日）の米ドル/円は、前月末（105円台前半）から円安の105円台後半、ユーロ/円は前月末（125円台半ば）から円高の124円台前半となりました。

米ドル/円は、米国株価の軟調な推移からリスクセンチメント（投資家心理）が悪化し、一時的に米ドル安となりましたが、月末にかけては株価が下げ止まるなか、米ドル高へと反発し、月間ではほぼ横ばいとなりました。ユーロ/円は、欧州圏の感染拡大懸念や英国とEU（欧州連合）のFTA（自由貿易協定）交渉の難航などからリスクセンチメントが悪化し、ユーロ安となりました。月後半には、ECB高官からユーロ高をけん制する発言が相次いだこともユーロを下押ししました。

＜市場見通し＞

（債券）米国では、景気の回復傾向が続く一方で、大統領選を控えて投資家が慎重な姿勢になると想定されることや金融政策面ではFRBによる米国債等の買入れが継続されていることなどから、長期金利はレンジの動きが続くと予想します。ユーロ圏では、景気の持ち直しが続く見通しながら、感染拡大が引き続き警戒されることや、ECBの国債買入れ策も継続的に実施されていることから、金利はレンジ推移を予想します。

（為替）米ドル/円は、日米金利差が中期的な米ドルの支援材料になるとみられる一方で、米大統領選を控えて市場が慎重姿勢を強めると想定され、レンジ相場を予想します。

ユーロ/米ドルに関しては、欧州における感染拡大への警戒が続きますが、景気の持ち直しや欧州復興基金による投資拡大への期待がユーロの支援材料となり、ユーロの底堅い推移を予想します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

※ このページは「マネーインカム・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	72.7	-0.8
先物等	0.0	0.0
現金等	27.3	+0.8
合計	100.0	0.0

残存構成比率 (%)

	当月末	前月比
1年未満	72.7	+7.3
1-3年	0.0	-8.1
3-7年	0.0	0.0
7-10年	0.0	0.0
10年以上	0.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資） (%)

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2020/08/31	-0.0	-0.0
3か月	2020/06/30	-0.0	-0.0
6か月	2020/03/31	-0.0	-0.0
1年	2019/09/30	-0.1	-0.0
3年	2017/09/29	-0.2	-0.2
設定来	2008/03/31	0.9	0.7

※ ベンチマークは、無担保コール翌日物を指します。

種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債	11.3	-0.1
地方債	0.0	0.0
政府機関債	61.4	-0.7
金融債	0.0	0.0
事業債	0.0	0.0
円建外債	0.0	0.0
その他債券	0.0	0.0

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	0.7	-0.0
残存年数 (年)	0.3	-0.1
デュレーション (年)	0.3	-0.1
直接利回り (%)	0.7	-0.0
最終利回り (%)	-0.0	+0.0

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 13)			
銘柄	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 第9 2 6回国庫短期証券	0.000	0.1	11.3
2 第1 4 2回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.000	0.9	8.0
3 第9回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.900	0.5	7.7
4 第1 3 7回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.200	0.7	7.7
5 第2 5回政府保証地方公共団体金融機構債券	1.200	0.7	7.6
6 第1 3 9回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.100	0.8	3.8
7 第1 2 9回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.200	0.4	3.8
8 第1 2 6回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.200	0.3	3.8
9 第2回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.800	0.2	3.8
10 第5 7回政府保証関西国際空港債券	1.200	0.2	3.8

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

ファンドの特色

1. 日本を含む世界各国の株式、公社債および短期金融資産に分散投資を行います。
 - 実際の運用は、各資産に投資する5つのマザーファンドへの投資を通じて行います（ファミリーファンド方式）。
 - ターゲットイヤー（西暦2045年）到達後は、主として国内債券パッシブ・マザーファンドおよびマネーインカム・マザーファンドで運用を行います。
2. 基本資産配分は、ターゲットイヤーまでの残存期間が長いほど値上がり益の獲得を重視し、ターゲットイヤーに近づくに従い配当等収益を重視した比率とします。
基本資産配分は、原則として年1回決算時に変更します。
3. 実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により債券相場が下落（金利が上昇）した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ファンドが保有する個々の債券については、下記「信用リスク」を負うことにもなります。

■ 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほかに、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 市場流動性リスク

ファンドの資金流入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

投資リスク

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2008年3月31日設定）

決算日

毎年4月13日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
ありません。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に以下の率を乗じた額です。
ターゲットイヤーの決算日まで：年0.462%（税抜き0.42%）
ターゲットイヤーの決算翌日以降：年0.231%（税抜き0.21%）
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。
 ※監査費用の料率等につきましては請求目論見書をご参照ください。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター：0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
エイチ・エス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第35号	○					
a uカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○		○	○		
S M B C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○		※1
株式会社 S B I 証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○		○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		

備考欄について

※1：「ダイレクトコース」および「投信つみたてプラン」でのお取り扱いとなります。

ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項

- 参考指数は、TOPIX（配当込み）、NOMURA－BPI（総合）、MSCIコクサイインデックス（円換算ベース）、FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）、無担保コール翌日物の日々の収益率を当ファンドの基本資産配分で加重平均し、当社が独自に指数化しています。

TOPIXは、株式会社東京証券取引所が公表する指数であり、その指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

NOMURA－BPI（総合）は、野村證券株式会社が公表する指数であり、その指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。

MSCIコクサイインデックスは、MSCI Inc.が公表する指数であり、その指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。

FTSE 世界国債インデックスはFTSE Fixed Income LLCが公表する指数であり、その指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

当ファンドをこれら発行者、許諾者が保証するものではありません。

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2020年09月30日

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント